

学都いしかわ FD・SD共同教育プログラム基本枠組 (2014年度試行PG・2015年度PG計画を含む)

FD・SD共同教育プログラムメニュー	目標 【メニューの到達目標】	対象 【職域・階層】	内容 【具体的テーマ・内容】	方法 【実施主体】 【実施形態・時期】	評価 【評価対象・評価方法】	2014年度試行プログラム	2015年度プログラム計画
1 授業設計・教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ●到達目標を明確化し、学生に主体的な学びを促すことができる。 ●授業内容・形態に応じて、多様な方法で教えることができる。 ●学生の能力に応じて、授業を柔軟にデザインすることができる。 	FD	<ul style="list-style-type: none"> ●シラバス作成 ●授業デザイン ●大人数授業設計 ●PBL設計 ●実験・実習指導方法 ●アクティブ・ラーニング ●ファシリテーションスキル研修 ●協同・協調学習 ●ワークショップのデザイン ●学習意欲の植え付け方 ●学習方法の教え方 ●リメディアル教育 ●英語による授業作法 	共同 (ワークショップ) (合宿研修)	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
2 公開授業・授業映像共有	<ul style="list-style-type: none"> ●授業力を高める。 ●同僚教員の授業方法を評価することができる。 	FD	<ul style="list-style-type: none"> ●授業参観 ●研究授業 ●授業映像共有(DVD作成ほか) ●授業のNG集 ●Good Practice(ベスト・ティーチャー)の紹介 ●学生(受講者)の視点を知る ●異なる分野の授業方法を知る ●異なる大学の様子を知る 	単独又は共同 (模擬授業) (シティカレッジ授業の活用)	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
3 新任(若手)教員研修	<ul style="list-style-type: none"> ●大学教員としての基礎知識を学び、行動することができる。 	FD	<ul style="list-style-type: none"> ●大学教員の意義・役割 ●自大学の建学の理念 ●大学教育の歴史 ●教育方針 ●研究倫理、倫理観 ●研究を教育に結び付ける ●キャリア意識 ●協調性 ●事務処理の理解・責任 ●教授法の基礎 ●学生理解の基礎 ●青年心理・発達の科学 ●認知心理学、学習科学の基礎 ●TA活用法 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。	☆若手教員授業研究会	
4 成績評価(基準)・達成度測定・ルーブリック・学修ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> ●適正な成績評価を行うことができる。 ●成績評価基準を説明することができる。 ●学生の学びを把握し、きめ細かい指導を行うことができる。 	FD	<ul style="list-style-type: none"> ●成績評価基準 ●診断(準備)、形成、総括評価 ●観点別評価(ブルームの3領域) ●テスト作成方法 ●ルーブリック分野別研修(開発・試行) ●真正の評価を目指す ●教員と学生の両者の評価の突合せ ●学修ポートフォリオ事例紹介 ●自己評価・ピア評価 ●正課外活動の到達度測定 ●学びの統合(自律的・持続的学習) 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。	☆FD・SD研修会「地域で学ぶ、地域と学ぶ」第5回「「地域で学ぶ」の評価にむけて～ルーブリックへの基礎的理解とその実践～」	
5 各種機器を使った教育の工夫、多様な学習環境を活用した教育の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●教育ツールや学習環境の意義・目的を理解し、学生の学習を促進することができる。 	FD	<ul style="list-style-type: none"> ●ICT活用 ●電子教科書、タブレット ●クリッカー ●電子黒板 ●LMS(moodle等) ●学習環境デザイン ●ラーニング・コモンズ ●図書館ラーニング・スペース 	共同又は単独	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
6 授業評価アンケートのあり方(実質化)	<ul style="list-style-type: none"> ●授業評価アンケートの意義・目的を理解することができる。 ●授業評価アンケートの効果的活用を考えることができる。 	FD・SD (教務委員レベルの研修)	<ul style="list-style-type: none"> ●授業評価アンケートの目的や位置付けの理解 ●授業評価アンケート項目の検討 ●授業評価アンケート結果の活用方策、公開 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		

学都いしかわ FD・SD共同教育プログラム基本枠組 (2014年度試行PG・2015年度PG計画を含む)

FD・SD共同教育プログラムメニュー		目標 【メニューの到達目標】	対象 【職域・階層】	内容 【具体的テーマ・内容】	方法 【実施主体】 【実施形態・時期】	評価 【評価対象・評価方法】	2014年度試行プログラム	2015年度プログラム計画
7	教学マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ●全学的な視点で、教育課程を構成することができる。 ●教学マネジメント能力の向上 	FD・SD	<ul style="list-style-type: none"> ●ディプロマポリシー明確化・実質化 ●カリキュラム構成能力 ●カリキュラムデザイン ●教務と裁量、規則(教務事務との協働) 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
8	調査・情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ●最新の政策動向、教育研究事情を理解することができる。 ●地域の課題解決のため、各種調査企画をすることができる。 ●最新情報又はニーズのある情報を収集することができる。 	FD・SD	<ul style="list-style-type: none"> ●近年の高等教育行政の動向 ●先進教育事例調査報告 ●他県の先進的事例調査 ●石川県での高等教育シンクタンク ●最新情報の教育現場実践へのフィードバック ●海外の大学等との連携推進 ●産業界との連携推進 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
9	教員・職員・学生の対話、教職協働	<ul style="list-style-type: none"> ●大学構成員が相互理解することができる。 ●大学構成員の自己意識を高めることができる。 	FD・SD	<ul style="list-style-type: none"> ●教員・職員・学生の対話の場 ●共創フォーラム ●教員・職員の信頼関係 ●マネジメント研修 ●教職員懇話会(カフェ) ●教職員・学生共同プロジェクト(課題解決型) ●学生参画型FD ●学生生活実態調査の反映 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。	☆大学共創フォーラム	
10	学習支援・学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な学習支援・学生支援を行うことができる。 ●学習支援・学生支援の各種方策を理解することができる。 	FD・SD	<ul style="list-style-type: none"> ●学習データの理解、活用 ●アカデミック・アドバイジング ●ライティングセンター ●キャリアカウンセリング ●学生相談の充実 ●ピア・サポート ●保護者対応 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		

学都いしかわ FD・SD共同教育プログラム基本枠組 (2014年度試行PG・2015年度PG計画を含む)

FD・SD共同教育プログラムメニュー		目標 【メニューの到達目標】	対象 【職域・階層】	内容 【具体的テーマ・内容】	方法 【実施主体】 【実施形態・時期】	評価 【評価対象・評価方法】	2014年度試行プログラム	2015年度プログラム計画
11	企画力	<ul style="list-style-type: none"> ●問題発見手法を実践できる。 ●情報をグループ化できる。 ●問題解決提案を行うことができる。 ●企画を効果的にプレゼンできる。 	SD	<ul style="list-style-type: none"> ●講演会の開催(企画、業務の流れ) ●デザイン思考ワークショップ ●ファシリテーション体験、向上研修 ●グループワーク ●企画力養成、企画経験 ●スケジュールの立て方 ●ミーティングの運営の仕方 ●実現性の推測 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
12	キャリア	<ul style="list-style-type: none"> ●自身のキャリアプランを立てることができる。 ●スタッフ・ポートフォリオをまとめ、理解を深めることができる。 ●キャリアプランを実現するための計画を作成することができる。 	SD	<ul style="list-style-type: none"> ●ペルソナを利用し、キャリアプランを作成 ●コーチング講習会 ●リーダーシップ向上セミナー 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。	☆大学経営人材養成合宿研修	
13	(キャリア形成を支える)スキル	<ul style="list-style-type: none"> ●大学人、社会人としての基礎力を身に付ける。 	SD	<ul style="list-style-type: none"> ●講習会の開催 ●ビジネス文書、メールの書き方 ●ビジネスマナー研修 ●コミュニケーション、対人折衝スキル ●プレゼンのスキル ●文書整理術、議事録の書き方 ●新任(若手)職員研修 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
14	ITスキル	<ul style="list-style-type: none"> ●ICTを利用して、業務を効率化することができる。 	SD	<ul style="list-style-type: none"> ●講習会の開催 ●ITスキル(Ever note活用など) ●会議でのiPad活用 ●ITスキル(エクセル、アクセス) 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
15	ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●大学人としてのネットワークを構築する。 	SD	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月各大学職員が集うダベリ場の提供 ●教務事務交流会 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
16	大学経営・EM(エンrollmentマネジメント)・IR	<ul style="list-style-type: none"> ●大学等の経営管理を担うことができる。 	SD・FD	<ul style="list-style-type: none"> ●トップによる講演会 ●大学のガバナンス(仕組み) ●私立大学の経営 ●管理職のためのマネジメント ●法令の理解 ●労務管理研修 ●エンrollmentマネジメント(EM、IR)、中退予防な 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
17	補助金	<ul style="list-style-type: none"> ●補助金の情報収集・学内体制・申請書作成テクニックを身に付ける。 	SD・FD	<ul style="list-style-type: none"> ●実践事例に学ぶ ●研究支援(科研費、産学連携) ●補助金業務 ●予算、補助金説明会 ●リサーチ・アドミニストレーター研修 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		
18	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ●危機に際しての対処方法を身に付ける。 	SD・FD	<ul style="list-style-type: none"> ●学生の事件事故の対応マニュアル ●危機管理(学生をキャンパス外への送り出し) ●災害対策 ●自大学のリスクを見える化 ●初動体制を学ぶ ●ハラスメント ●苦情対応 	共同	ルーブリック、参加者アンケート、研修参加後のフォローアップ活動度合、参加者の交流継続度合を評価指標とし、これらを組み合わせた評価方法とする。		